
侍の煩い

田島 大腮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
侍の煩い

【Nコード】
N1864W

【作者名】
田島 大腮

【あらすじ】
現代にいた侍。

彼の元には現代のメディアが押し寄せる。
一躍人気者になってしまう侍がいた
彼が抱く煩いとは？

「ダメだ。殺される」

私は倒れこみ、真剣を翳した男を見た。

「武士として、この男に殺されるのであれば幸せか…」
私は腹を決め、目を閉じた。

あと一歩踏み出せば、私は目の前の武士を倒すことができる。
でも私はどうしても動くことができなかった。草履の鼻緒が切れているのだ。踏み出す力が弱ければ相手がいくら腹を決めているとしても、息の根を止めることは非常に難しい。一体、どうすれば…

「はい、カット！」

監督の声がかかるとその場の緊張が一気に解けた。監督は鼻緒の切れた方の武士に向かってこう言った。

「いやあ、やっぱり本物の侍は違いますね。今回のオフアーを引き受けてくださって、ありがとうございます。いい映画になりますよ」
倒れていた役者も立ち上がって、砂を払い落しながらこう言った。

「本当に殺されるかと思いましたよ」

私は差し出された手を握ったが、分からない言葉が多かった。

蝉の音を聞きながら、私は家に入った。妻が桶に水を張って、私の身支度を手伝う。彼女は優しい顔をしながら今晚の夕飯について思案しているようだった。

「オフアーという言葉はなんだ？」

「オフアーというのは、お願いのことですね。あなたは本物の侍。
現代ではないかと思われていた奇跡ですから」

「なるほど」

本当は「映画」という言葉も知らなかったが、それは今晚にでもさりげなく聞くとしよう。私は庭でがやがやと荷物を片付ける大勢の

人間を見つめた。今ではかまどに立つ妻も。この大勢の中の一人だった。

一年ほど前、私の目の前に大きな機械や知らない言葉を使う人が現れた。着ている物も姿も私が会った事のない人達だった。

私は何がなんだか分からない状態で、私は刀から手を離すことができなかった。そんな私に妻が必死で説明してくれた。そこで私は「時代が変容している」ことを知った。一から十まで妻が教えてくれた。そして、彼女はここに住み始め、私たちは夫婦になった。

夕飯を食しながら、私はずっと思っていた言葉を口にした。「映画」という言葉の意味は知らなくてもいい。

「一緒に帰らなくて良かったのか？」

「帰るって。ここが私の家ですよ？」

「でも、時代が違うのではないのか？」

「そうですね。始めはびっくりしましたけれど、もう慣れました。おかげで心安らかな日々を過ごしていますよ」

妻が笑うから良しとしようか：今では私にとっても非常に大切な人である。彼女がいなければ押し寄せる現代人の言葉を理解できず、農作業の仕事を邪魔されたりしてしまう。彼女がいれば、大半は追っ払ってくれるし、「現代の金」という物も手に入る。金の使い方は知らないが、そのおかげで有力武士の妻のような、豪華な着物や装飾品を手に入れることができると妻は言う。そしてよく笑う。

「今夜は涼しくなるな」

そう言うと妻は微笑み、外を見つめた。

「良い月ですね」

「ああ」

妻によるとこの年、私が出演したという「映画」はたくさんの人に観られたらしい。おかげで家の箆笥には布団のように「現代の金」が積まれている。私は今までのように暮らせたならそれでいい。しか

し：

妻は箆笥を見るたびに、ニヤリと笑う。そんな顔を見る度に私は不安が押し寄せる。

妻がいつかいなくなってしまうのか。恐らくはそう遠くない未来に、私は煩っている。

(後書き)

ボツになった作品に手を加えてみました。

ご感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1864w/>

侍の煩い

2011年10月9日14時19分発行